

ホッとアートプレゼント実施アンケート結果 「子ども」 190人

20事業・19病院／公演作品7作品

今年度のホッとアートプレゼントには、上演リストに20を超える作品を用意したが、実施結果は昨年度実績のある7作品に集中した。

7作品の公演数には1～5公演と開きがあるものの、各病院での参加者数とアンケート回収率も様々で、結果としてアンケート回収数の作品内訳は20%前後が4作品、5%前後が3作品となった。[図-1]

「マジック」	4st.	…	25%	(47人)
「クラウンA」	2st.	…	16%	(30人)
「クラウンB」	5st.	…	21%	(39人)
「落語」	3st.	…	21%	(40人)
「クラウンC」	1st.	…	6%	(12人)
「人形劇A」	4st.	…	7%	(14人)
「人形劇B」	1st.	…	4%	(8人)

また、「人形劇」A・Bは、対象年齢を乳幼児までを含む作品のため、「子ども」のアンケート回収は今後も少ないと思われる。

「子どもアンケート」の回答内訳を年齢別に表したのが[図-2]で、1歳から35歳までを含む。

回答年齢の中心層は5～15歳の各年齢で10人を超え、12・13・14歳は20人を超えていた。

1～5歳までの回答については、保護者が代筆、あるいは聞き書きしているケースが多いが、これらの回答も、子どもの意見を代弁した回答として、そのまま採用した。

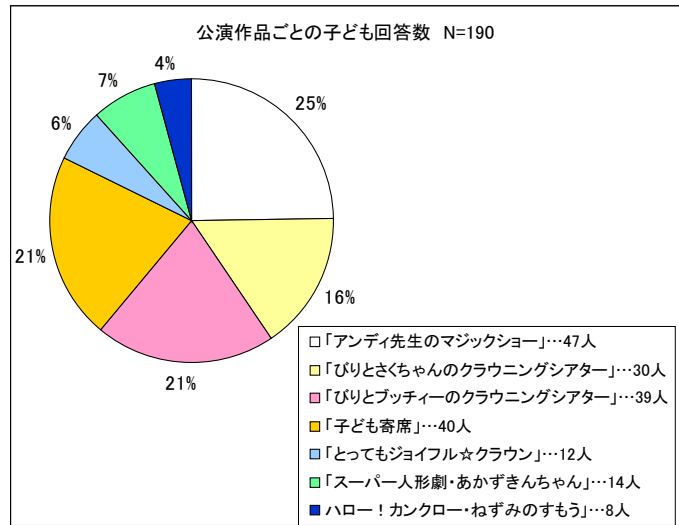
子ども回答者の男女比は、男子51%(96人)、女子42%(80人)、記入のないものが7%(14人)であった。[図-3]

子どもにホッとアートプレゼント公演の評価をたずねた結果が次のページ[図-4]である。

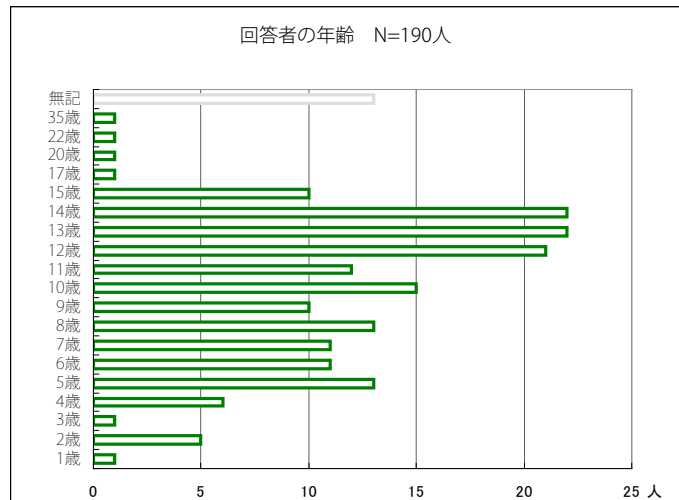
「無記入」は3%(6人)で、全質問の中でも高い回答率であった。

内訳は、「すごく、たのしかった！」が68%(128人)と全体の約7割、「たのしかった」22%(42人)と合わせると回答した9割の子どもにとって楽しい体験であったと考えられる。

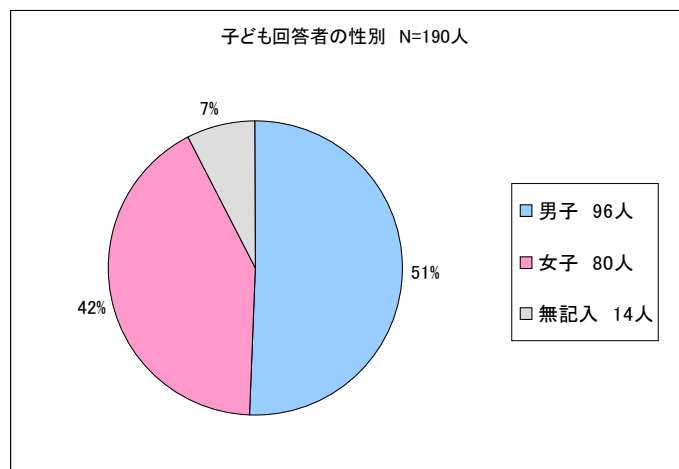
病院というハード・ソフト様々な制約がある中で、子どもたち自身も辛い状況での参加を考えると、ホッとアートプレゼント公演評価として、成果があった



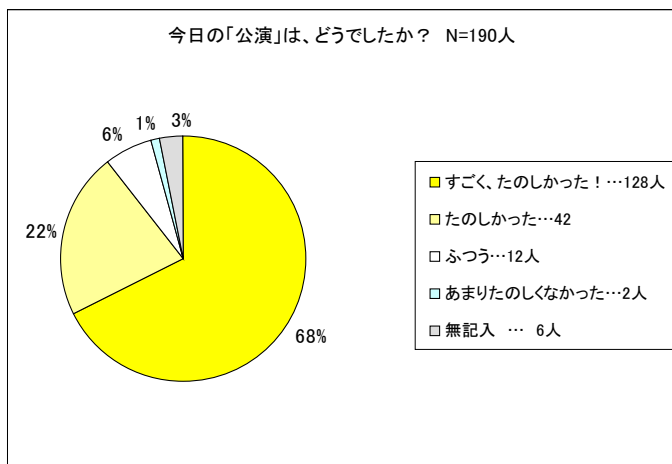
[図-1]



[図-2]



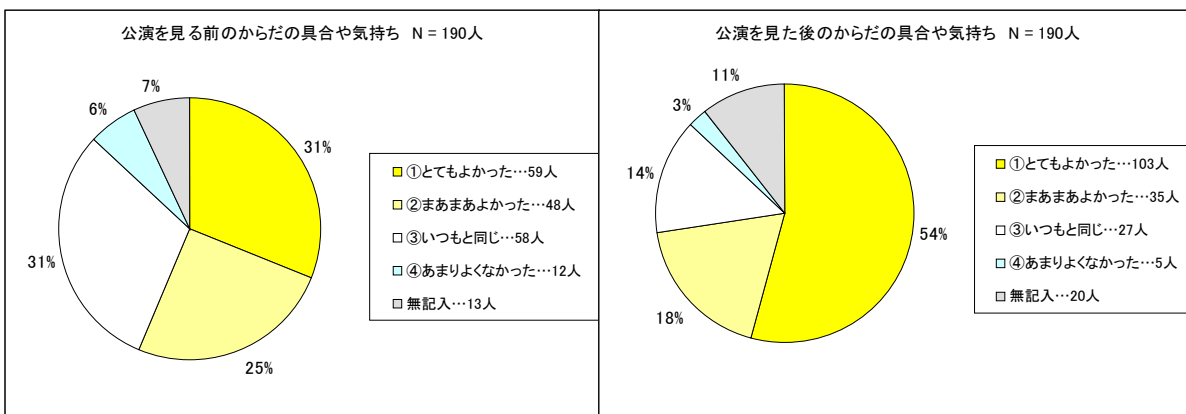
[図-3]



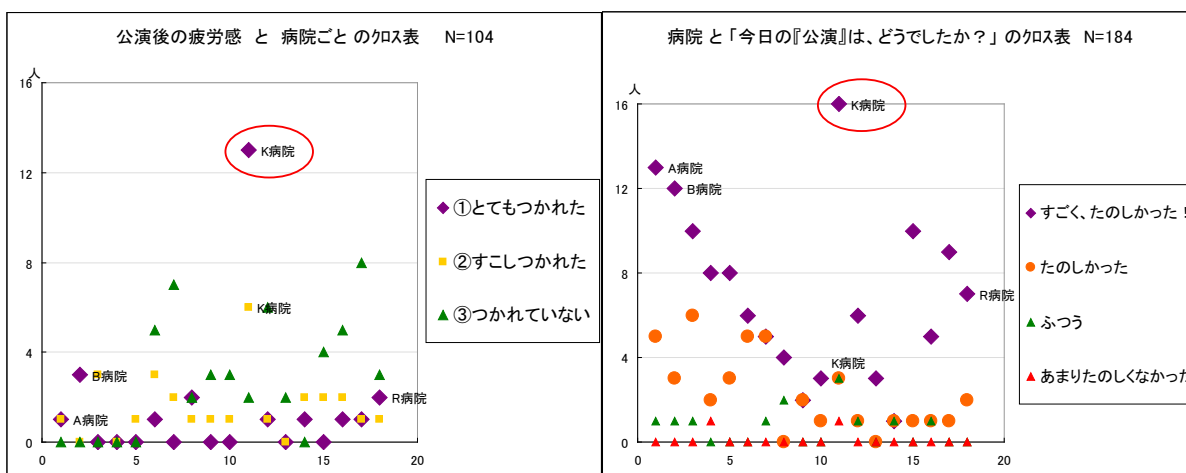
[図-4]

とみていだろう。

一方、「ふつう」は6%（12人）、「あまりたのしくなかった」は1%（2人）いることから、体調が悪いなどは論外だが、気分が乗らないなどの子どもにも押しつけることがないように、進行上の配慮が必要である。



[図-5] 次に「体の具合や気持ち」について、公演の参加前と公演後をたずねると、公演後に改善傾向がみられる結果となった。公演前の「あまりよくなかった」から3ポイント、「ふつう」から17ポイント、公演後に計20ポイントが減少し、「とてもよかった」が23ポイント増加した。この変化は、全ての会場レポートで報告されているように、楽しい体験をすることで、ふさがちな気分がプラスの方向に変化したことを自覚されたと思われる。[図-5]



[図-6] さらに「公演後の疲労感」について、病院ごとに集計したのが [図-6 左] である。「とてもつかれた」の値が高い K 病院は心の治療をしている小中学生が参加しており、本事業の実施については慎重な吟味がなされ、2年度目の実施である。次に「実施病院と公演の評価」をクロスした結果は [図-6 右]。K 病院は「すごく、たのしかった！」が16人と最も多く、二つの図から子どもたちは「とても楽しくて」「とても疲れた」体験をしたと考えられる。病院との連携が図れば、ホッとアートは当初予期していなかった側面での活用もあるかもしれない。